

守山企業景況調査報告書

(第 20 回)

平成 26 年 7 月～平成 26 年 9 月期 実 績

平成 26 年 10 月～平成 26 年 12 月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 26 年 7 月～平成 26 年 9 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	19	95.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	20	17	85.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	65	91.5%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 26 年 7 月～平成 26 年 9 月、見通しを平成 26 年 10 月～平成 26 年 12 月とし、調査時点は平成 26 年 10 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 26 年 7 月～9 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 26 年 7 月～9 月期の調査結果では、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの主要 4 項目全てでわずかではあるが改善した。

<業況>

業況 DI は▲20.3 と前回調査に比べて 2.8 ポイント改善した。業種別では、小売り▲42.1、製造▲9.1、建設 9.1、サービス▲23.5、卸売り▲16.7、建設 27.3 であり、建設業以外の業種でマイナスの数値となった。

10 月～12 月期見通しでは、全体で▲20.0 とほんの僅かに数値が上向いている。

<売上高>

売上高 DI は▲21.5 で前回調査と比べると 2.7 ポイント改善した。業種別では小売り▲57.9、製造 18.2、建設 25.0、サービス▲35.3、卸売り▲33.3 で製造業と建設業はプラス数値であったものの、その他の業種はマイナスの数値であった。

10 月～12 月期見通しは全体で▲23.1 で 7 月～9 月期実績よりも数値が低下している。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲26.2 となった。業種別では、小売り▲36.8、製造▲9.1、建設 0.0、サービス▲47.1、卸売り▲16.7 であり、建設業以外はマイナスの数値であった。

10 月～12 月期見通しは全体で▲27.0 と今回調査より低い数値となっている。

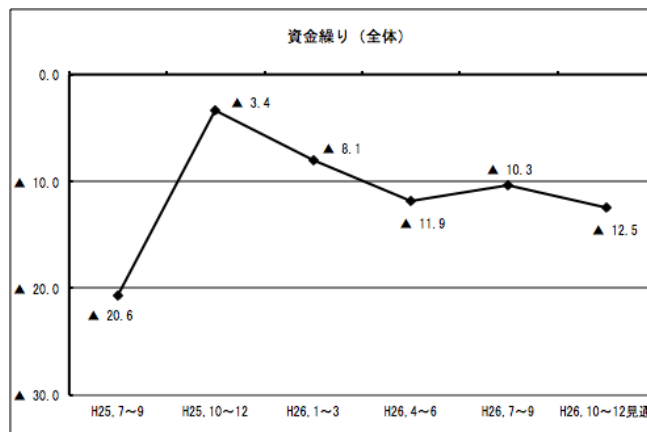
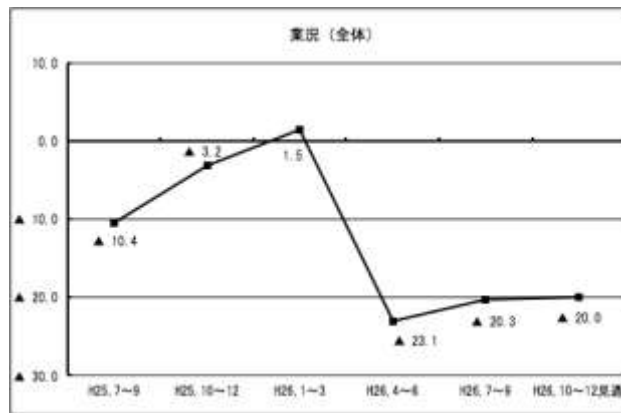
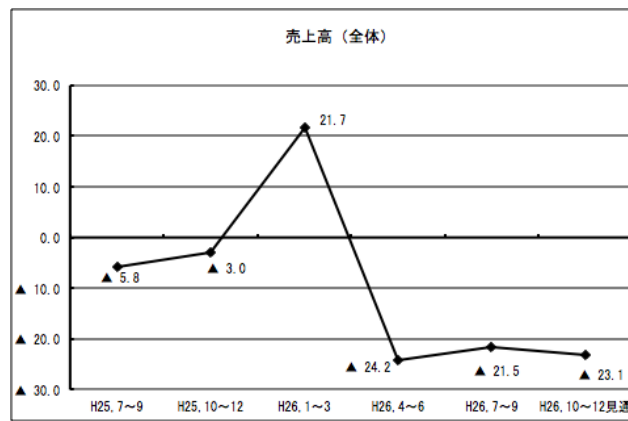
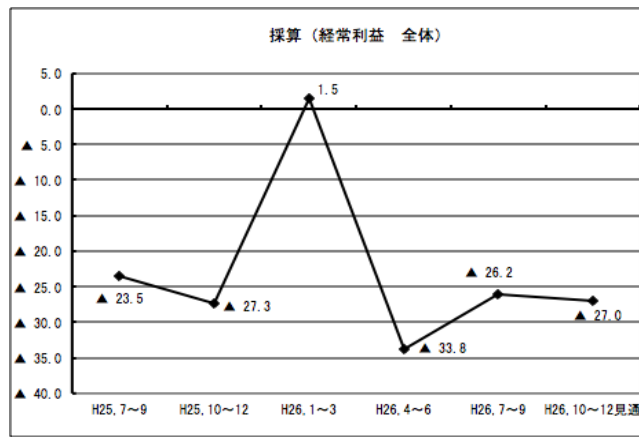
<資金繰り>

資金繰り DI は▲10.3 と前回調査に比べて僅かに低い数値となった。業種別では、小売り▲16.7、製造▲11.1、建設 0.0、サービス▲14.3、卸売りは 0.0 となった。

10 月～12 月期見通しでは、全体で▲12.5 と今回調査よりも高い数値となっている。

<その他の意見>

- ・消費税の 10%への増税反対。
- ・中心市街地交流駐車場を 2 時間無料にして欲しい。



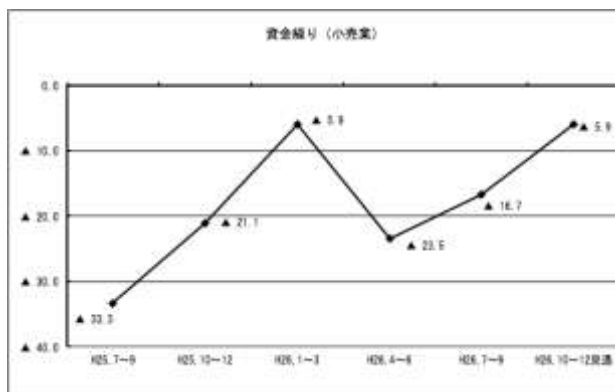
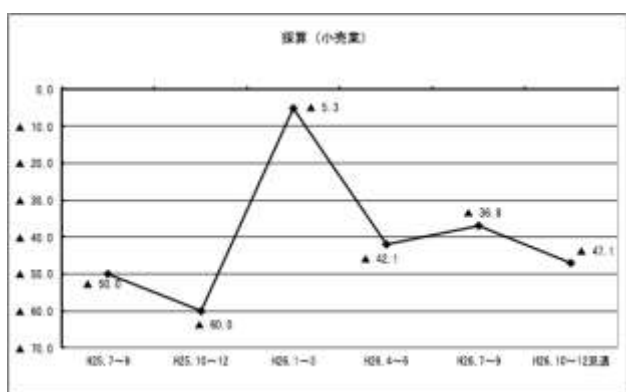
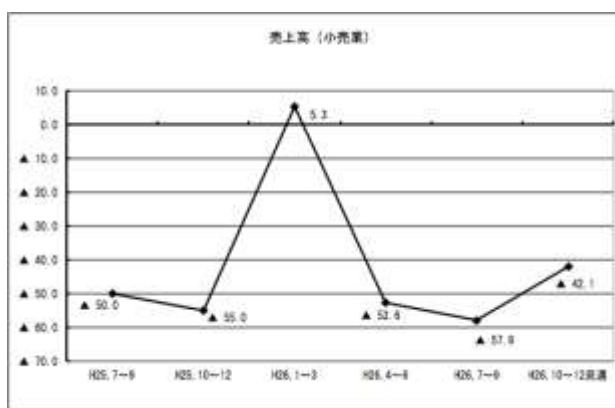
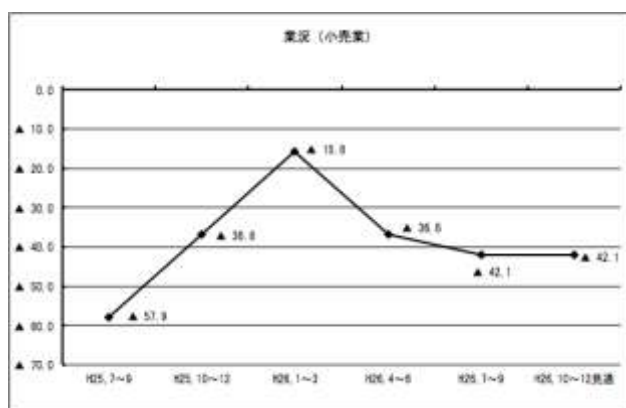
小売業

小売業の業況DIは▲42.1と前回調査に比べて5.3ポイント低下した。2四半期連続で数値が低下しているが、平成25年7月～9月期が▲57.9であったので1年前よりは悪くない。10月～12月期見通しは▲42.1と今回調査と同じ数値であるので、ここを底と認識しているようである。

売上高DIは、▲57.9と前回調査に比べて5.3ポイントの低下である。前回調査で大幅なマイナスとなった状態がそのまま継続しており、さらにわずかながら悪化していると思われる。10月～12月期見通しは▲42.1と改善しており、売上高もここが底という認識であると思われる。

採算DIは、▲36.8であり、前回調査より5.3ポイント上昇した。1年前の調査に比べると高い数値であるが改善の余地はまだまだあると言える。10月～12月期見通しは、▲47.1と低下しており、採算はまだ底が見えていない状態のようである。

資金繰りDIは▲16.7と前回調査に比べて6.8ポイント上昇している。前回調査で落ち込んだ資金繰りの数値が上昇に転じている。資金繰りは前回は底と認識できるかもしれない。10月～12月期見通しでも▲5.9と今回調査よりさらに改善していることでもそれをうかがうことができる。



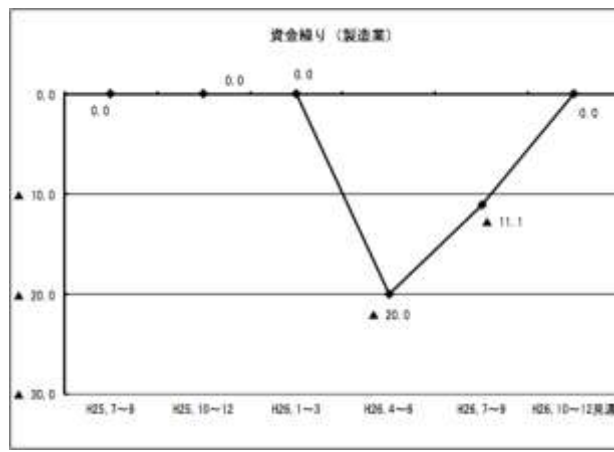
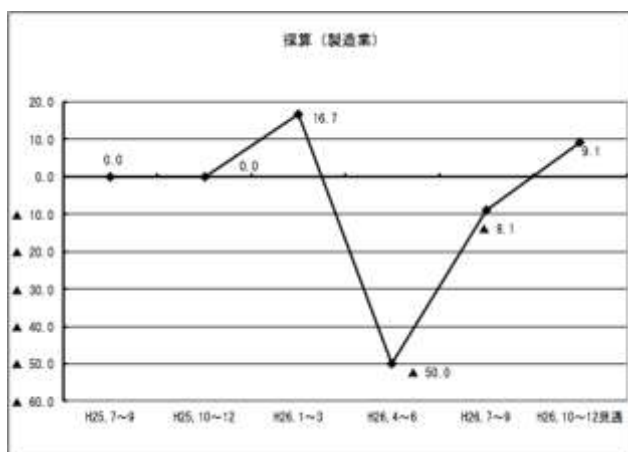
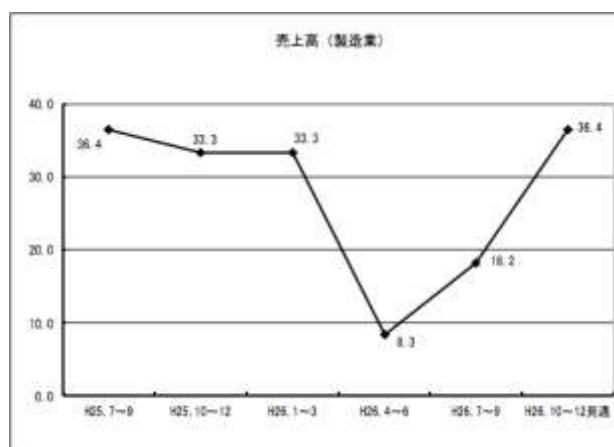
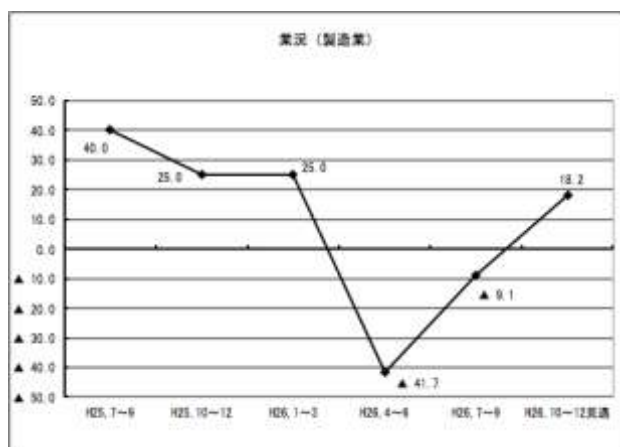
製造業

製造業の業況DIは▲9.1と前回調査に比べて32.6ポイントの大幅改善である。前回調査の急激かつ大幅な落ち込みから一気の回復である。10月～12月期見通しが18.2となっていることから、製造業はV字回復の軌道に乗りつつあるようである。

売上高DIは18.2と前回調査と比べて9.9ポイント改善した。10月～12月期見通しが36.4となっていることから売上高もV字回復の軌道に乗りつつあると言える。

採算DIは▲9.1と前回調査に比べて40.9ポイントの大幅な改善である。10月～12月期見通しは9.1となっており、マイナスの数値から2四半期で抜け出しそうである。

資金繰りDIは▲11.1となり、前回調査より8.9ポイント改善した。2四半期連続のマイナス数値であるが、10月～12月期見通しが0.0となっており他の指標と同様に資金繰りでも回復基調になっているようである。



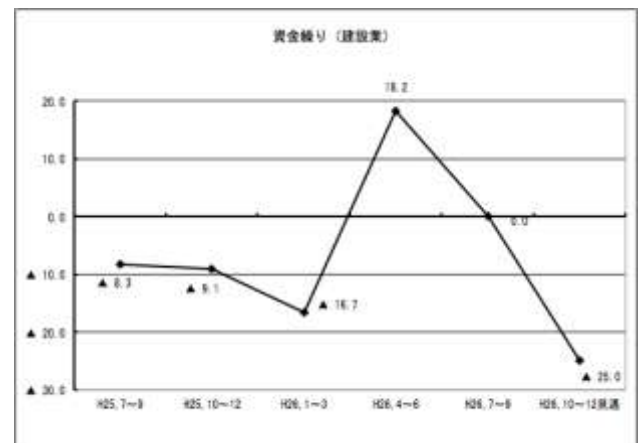
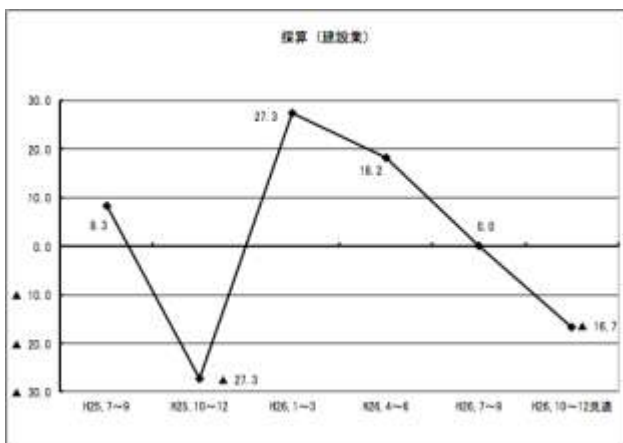
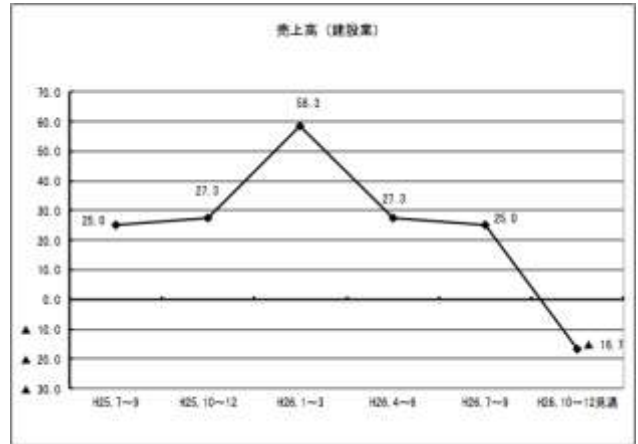
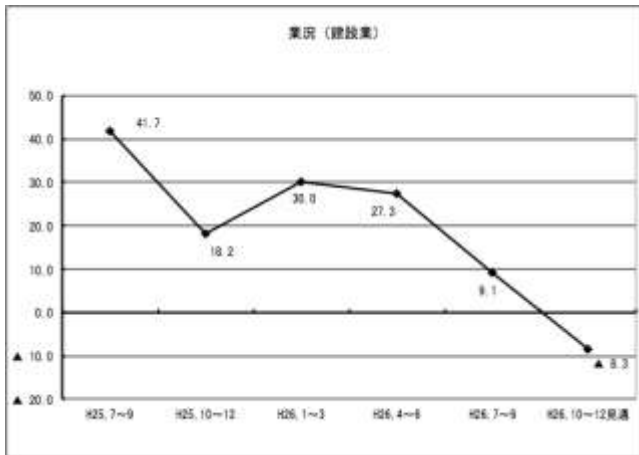
建設業

建設業の業況DIは9.1であり、前回調査より18.2ポイント低下した。過去1年以上プラス領域の数値が続いているが、少しずつ数値が小さくなってきている。10月～12月期の見通しは▲8.3とマイナスの数値となっており、建設業の調子が転機を迎えているようである。

売上高DIは25.0となり前回調査より2.3ポイント低下した。プラス領域であるが、業況と同様に右肩下がり傾向が見える。10月～12月期見通しでも▲16.7となっており、見通しの通りに推移するとマイナス成長に陥ることになる。

採算DIは0.0であり、前回調査に比べると18.2ポイントの低下である。採算も徐々に悪化して来つつあるように見える。10月～12月期の見通しは▲16.7であるので、業況や売上の動きに連動して悪化傾向が出てきていると言える。

資金繰りDIは0.0である。資金繰りはプラスとマイナスの間を行き来しているのですが、これをもって悪化とは断定できないが、10月～12月期の見通しが▲25.0となっているので、良い傾向にあるとは言い難い。



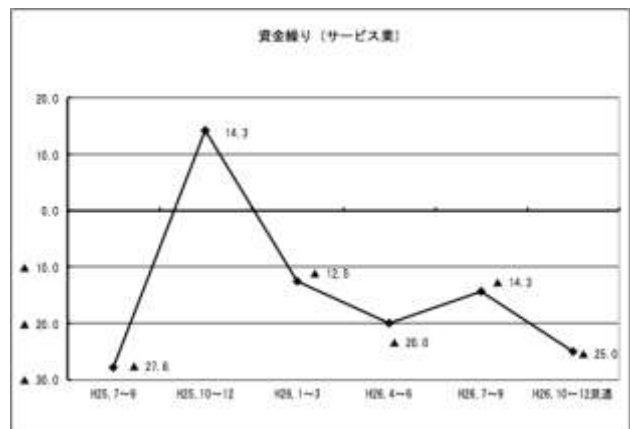
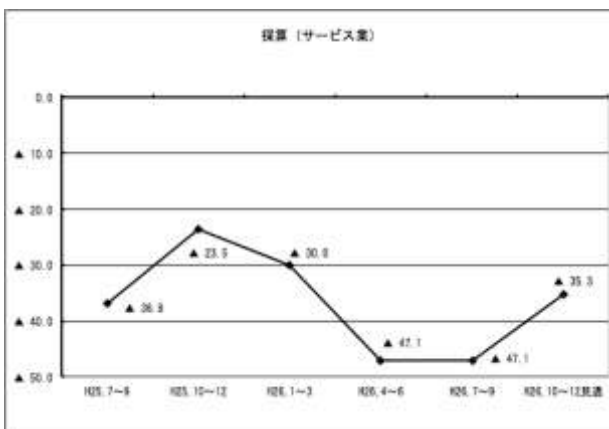
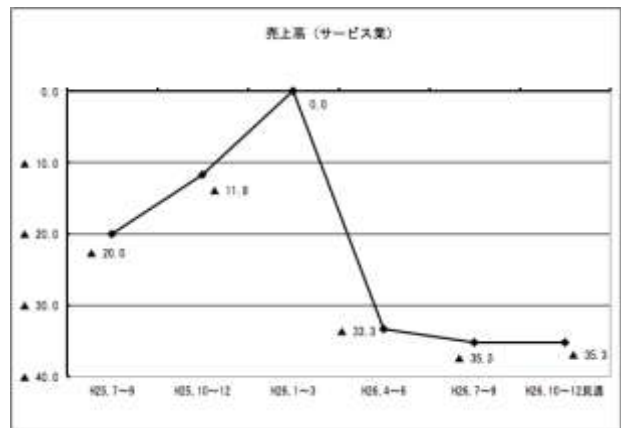
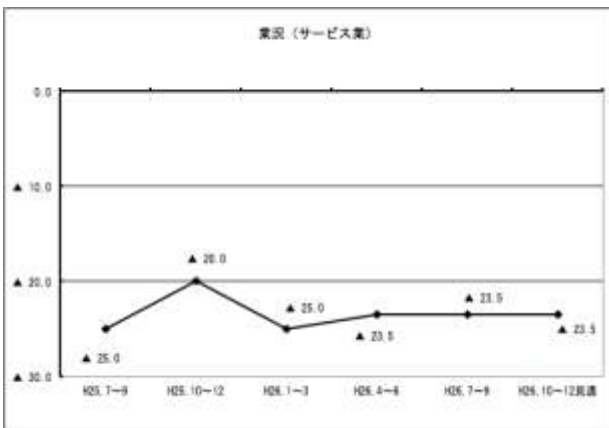
サービス業

サービス業の業況DIは▲23.5と前回調査と同じ数値であった。サービス業の業況DIは過去1年以上▲25の前後から離れることなく推移しており、今回も同様の結果になったといえる。10月～12月期見通しも▲23.5と今回調査と同数値でありこの傾向はまだ続きそうである。

売上高DIは▲35.3で前回調査より2.0ポイント低下した。前回調査時点で落ち込んだ数値のままである。10月～12月期の見通しでも▲35.3であるので、売上高の回復は1月～3月期だけのものではなかったのかもしれない。

採算DIは▲47.1となり前回調査と同じであった。前回調査時点で落ち込んだ数値のままである点は売上高と同じ傾向であり、採算の回復も遠くに感じられる。10月～12月期の見通しは▲35.3である。

資金繰りDIは▲14.3と前回調査より5.7ポイント低下した。少し前回調査よりも高い数値にはなっているが、資金繰りが良くなったと判断できるものではない。10月～12月期の見通しでも▲25.0である。



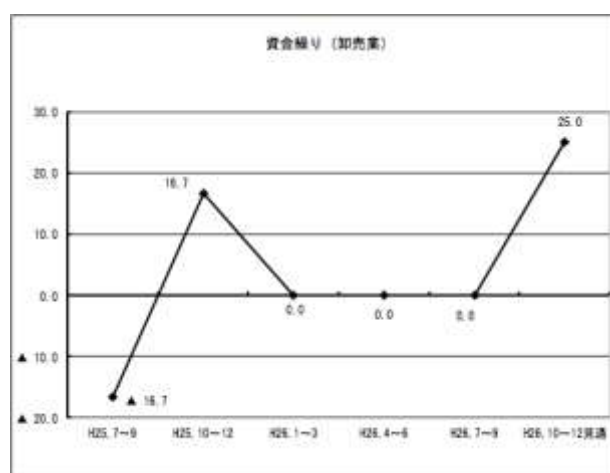
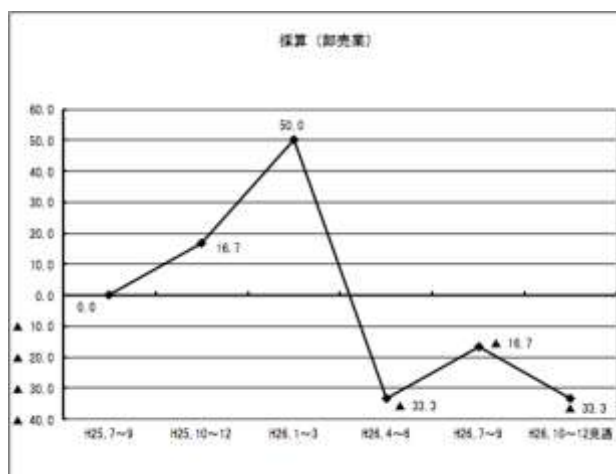
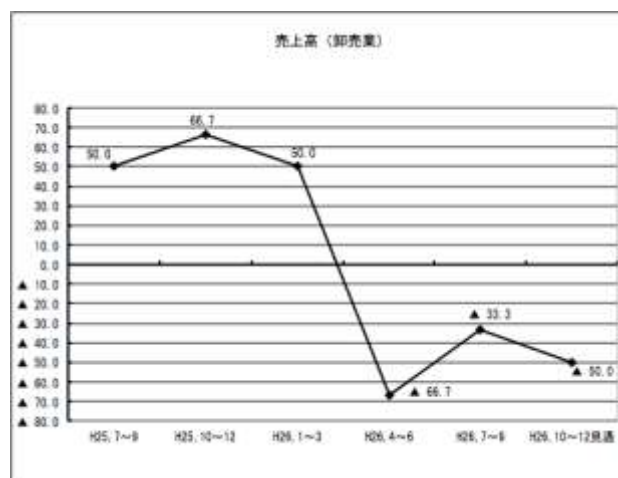
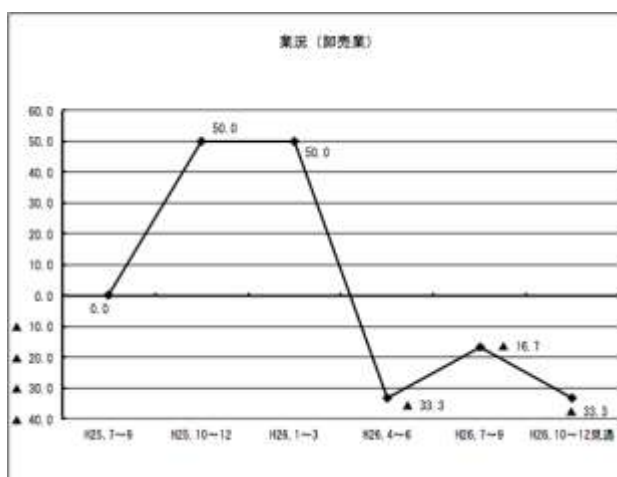
卸売業

卸売業の業況DIは▲16.7と前回調査に比べて16.6ポイント改善した。前回調査で一気に落ち込んだ分を回復するまでには至らなかった。10月～12月期の見通しが▲33.3となっていることからこのまま回復基調に入るとは現時点では言い難い。

売上高DIは▲33.3で前回調査より33.4ポイントの回復である。10月～12月期の見通しが▲50.0であることを考えると、業況と同様にこのまま回復基調に入るとは言い難い。

採算DIは▲16.7で前回調査より16.6ポイント回復した。10月～12月期の見通しが▲33.3であるので採算も回復基調にあるとは言える状態ではなさそうである。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。10月～12月期の見通しが25.0となっていることを見ると、資金繰りは回復に向かいつつあるかもしれない。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し
全 体	▲20.3	▲20.0	▲21.5	▲23.1	▲26.2	▲27.0
小売業	▲42.1	▲42.1	▲57.9	▲42.1	▲36.8	▲47.1
製造業	▲9.1	18.2	18.2	36.4	▲9.1	9.1
建設業	9.1	▲8.3	25.0	▲16.7	0.0	▲16.7
サービス業	▲23.5	▲23.5	▲35.3	▲35.3	▲47.1	▲35.3
卸売業	▲16.7	▲33.3	▲33.3	▲50.0	▲16.7	▲33.3

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し
全 体	▲7.7	▲3.1	▲26.2	▲31.1	▲1.6	▲6.6
小売業	▲26.3	▲21.1	▲50.0	▲37.5	▲18.8	▲13.3
製造業	9.1	27.3	▲18.2	▲9.1	27.3	18.2
建設業	25.0	16.7	9.1	▲9.1	0.0	▲16.7
サービス業	▲29.4	▲23.5	▲35.3	▲35.3	▲11.8	▲17.6
卸売業	16.7	16.7	▲16.7	▲16.7	16.7	16.7

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し
全 体	▲10.3	▲12.5	4.0	▲4.1	4.2	▲2.1
小売業	▲16.7	▲5.9	▲18.2	▲27.3	▲18.2	▲18.2
製造業	▲11.1	0.0	22.2	11.1	22.2	11.1
建設業	0.0	▲25.0	10.0	0.0	10.0	0.0
サービス業	▲14.3	▲25.0	7.1	0.0	8.3	0.0
卸売業	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

